

令和7年8月22日

流水型ダム建設に対する追加要望への回答

球磨川漁業協同組合

代表理事組合長 堀川 泰注 様

国土交通省 九州地方整備局

川辺川ダム砂防事務所長 栗原 太郎

令和7年8月8日付け球磨川漁業協同組合代表理事組合長から提出のありました「流水型ダム建設に対する追加要望」について、別添のとおり回答致します。

- 1 上流各地で河川掘削を行っているが、魚族の生息に必要な玉石や小さな粒径の石が少なくなっており、アユの産卵等に必要な瀬付きが出来ないため、対策を取って欲しい。

河川内にある巨石や玉石については、魚族の生息・生育・繁殖環境として重要であることは承知しています。

そのため、掘削工事にあたっては、濁り対策を含めてこれまでも球磨川漁業協同組合様や学識経験者の御意見や御助言を頂きながら実施しているところです。

今後の掘削工事におきましても、引き続き御意見・御助言を頂きながら河川環境に配慮した工事を実施するとともに、巨石等に配慮した掘削や仮設等で使用した巨石・玉石の存置など、洪水時の流速や水位の縦断変化・河道の安定・維持に考慮したうえで、アユ等の多様な動植物が生息・生育・繁殖を行う良好な瀬・淵や砂礫河原等の河川環境の保全・創出に取り組みます。

- 2 川辺川の流水型ダムについて、特に魚族の生息に関係しそうな基礎掘削や本体工事等の主要な施工時期などについて、工程表を作成するなどして分かりやすく示して欲しい。

流水型ダムについては、令和9年度の着工を目指して現在設計などを実施しているところです。

現在検討中の工程では、

令和 8 年度 転流工（仮排水トンネル）内の魚道設置

令和 9 年度 ダム本体基礎掘削工事

ダム本体基礎掘削完了後、堤体打設

令和 17 年度 試験湛水（堤体打設完了）

を予定しています

今後、設計及び工事の進捗などに応じて、分かりやすく説明する機会を設けて参ります。

要望2の補足資料 今後の事業スケジュールについて

令和7年4月時点	R6	R7	R8	R9	R17
環境保全措置	評価レポート 作成・公表	★ R7.3.25 流水型ダムアドバイザー会議設置 環境保全措置の具体化/現場実装 動植物のモニタリング			
ダム本体工事等	設計(模型実験等) 本体施工方法等検討	転流工 魚道設置 準備	ダム本体 基礎掘削工事 開始	堤体打設	試験 湛水
生活再建工事		★ R6.11 着手 付替村道(未施工区間の整備) ★ R7.2 着手 平場造成(協議が整った箇所から順次整備)			
斜面安定対策	対策工設計、施工方法等検討 地質調査	地質調査の結果、地すべり発生の可能性がある箇所において、順次対策を実施			
発電補償	発電事業者との協議を踏まえ、補償を実施				

- 3 宮園地区、特に宮園橋上流においては、アユのエサとなる藻類が生えるような玉石等がほとんど無く、魚族の生息が難しいため、河川掘削時に出た玉石、巨石を投入してほしい。

熊本県においては、五木村の宮園地区について、河川整備に関する設計を進めているところです。

河川整備に当たっては、地域の意見や現在の河川環境等を踏まえ、生物の生息・生育・繁殖環境の保全・創出に向けた取り組みとして、水制工や置き石等を行うこととしております。

なお、今年度、横手公園付近で試験施工を予定している水制工では、袋詰め玉石工等を用いることとしており、河川環境への効果を確認する予定です。

引き続き、球磨川漁業協同組合様の御意見や御助言を頂きながら、河川環境に配慮した河川整備を進めて参ります。

- 4 ダム予定地より下流、特に大神橋から廻りの堰区間においては、堆砂が多く、アユのエサとなる藻類が生えるような玉石等がほとんど無く、魚族の生息が難しいため、川辺川の流水型ダム着工前に、河川掘削時に出た玉石、巨石を投入してほしい。

熊本県においては、川辺川の河川内堆積土砂について、地域の御要望を踏まえながら、球磨川漁業協同組合様にも濁り対策等を御相談させていただき、順次、土砂の撤去を行っているところです。

今年度、流水型ダム予定地より下流では、井出山堰上流付近や高尾野橋下流付近における堆積土砂の掘削を予定しております。

今後の掘削工事においても、引き続き、球磨川漁業協同組合様の御意見や御助言を頂きながら、巨石等に配慮した掘削や玉石の存置など、アユ等の生息環境等の保全に取り組んで参ります。

- 5 川辺川の流水型ダム完成後、河川の濁りが長く続くことがないよう、ダム上流での堆砂の抑制や洪水調節操作の工夫等の対策を行うこと。

また、山からの濁水や土砂の流入を防ぐような対策についても関係機関と協力して取り組むこと。

流水型ダム完成後の河川の濁りについては、洪水調節に伴う一次的な貯水（洪水時にダムがない状態と同じになる）は平均1日程度、最大で3日程度になることから、環境影響の検討結果（シミュレーションや他事例）より、現在の自然状態（ダムがない状態）と大きく変わらない予測となっていますが、引き続き堆砂の抑制や洪水調節操作の工夫等の対策について、検討を進めて参ります。

なお、濁りの発生や長期化の要因となる流入土砂の対策については、引き続き崩壊箇所の調査やモニタリングなどを行い、影響の把握に努めるとともに、その要因分析も含めて関係機関と連携して対応します。

特に、濁りの原因となり得る山地の対策については、引き続き関係自治体等と連携しながら、河川への土砂流入抑制のための調査検討や施設整備を推進して参ります。

- 6 近年、九州電力、JNC（チッソ）の発電取水堰への堆積が進んでおり、下流に鮎のエサとなる藻類が付くような玉石が見られなくなっているため、堰に堆積した土砂を計画的に撤去するとともに、当該施設に関わらず堆積土砂撤去で発生した玉石などは、堰下流へ投入するよう協力を促すこと。

堰管理者である九州電力株式会社、JNC株式会社（チッソ）に確認したところ、令和2年、令和4年等の大規模出水以降、上流からの土砂供給が非常に多く、堆積が進んでいることは認識されています。

一方で、掘削後の再堆積や掘削工事に伴う濁り等の懸念、予算の確保等の課題もあることから、堆積状況等を見ながら計画的な掘削工事を検討していくとのことです。

つきましては、堰下流に鮎のエサとなる藻類が付くような玉石が見られなくなっている現状を踏まえ、魚族の生息・生育・繁殖環境に資するため、例えば堰管理者が実施する掘削工事に伴い玉石等が発生した場合は、工事箇所内での再配置のほか、仮置きしたうえで河川内への投入については国や県が行う河川工事と堰管理者で協議・調整しながら、時期や場所などを球磨川漁業協同組合様とご相談し、魚族の生育・生息・繁殖環境が確保できるよう努めて参ります。

7 川辺川流水型ダム工事に伴い、コンクリートのアク等は発生しないのか、その対策は十分対応しているのか。

ダム完成後のアクの溶出については、これまでの事例においてもそのような影響が出たことは確認されていませんが、工事中も含めてpHのモニタリングなどを行い、影響の把握に努めるとともに、万が一そのような事象が確認された場合には、必要に応じて中和処理等の対策を行います。